

行政事業レビューシート (外務省)

事業名	国際連合プロジェクト・サービス基金拠出金	担当部局庁	国際協力局 南部アジア部	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成22年度開始	担当課室	アフガニスタン支援室 南東アジア第一課	室長 有馬 裕 課長 佐々山 拓也				
会計区分	一般会計	施策名	VII-1 国際機関を通じた政務及び安全保障分野に係る国際貢献					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第三項(カンボジア)	関係する計画、通知等	-					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	<p>1. アフガニスタン支援 我が国はアフガニスタンを再びテロの温床にしないとの決意の下、国際社会と協力しつつ最大限の対アフガニスタン支援を実施。アフガニスタンの持続的・自立的発展のための支援の一つとして、「北部幹線道路除雪・雪崩対策」、「カブール市内橋梁整備」及び「ゴール県における緊急災害システム」を行い、現地のニーズに合わせた基礎生活分野の支援を実施する。</p> <p>2. カンボジア支援 我が国のカンボジア和平への積極的協力は、我が国が初めて平和構築に本格的に取り組んだケースである。我が国は、本件裁判が和平プロセスの総仕上げであることに鑑み、本件裁判の立ち上げ及び実施のために国際社会において主導的な役割を果たしてきている。本件拠出金は、カンボジアにおける正義の達成と同国の今後の発展にとり不可欠な「法の支配」の強化に資するものであり、我が国の平和構築分野での貢献を国際社会にアピールすることができる。</p>							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<p>1. アフガニスタン支援 (1) 北部幹線道路除雪・雪崩対策 カブール市とアフガニスタン北部の主要都市マザリシャリフ市を結ぶ幹線道路が敷設されているサラン県及びサマンガン県は豪雪地帯に位置しており、昨年冬に同地域において大規模な雪崩被害が発生し、雪害防止対策が望まれている。このことを受け、同地域の雪害対策として、雪害防止のための防雪設備及び発生時の対応のための除雪機材に加え、これら設備や機材が適切に運用されるためのトレーニング経費及び燃料費を充当。 (2) カブール市内橋梁整備 カブール川にかかるアルタール橋はカブール川兩岸を東西に結び市中心部の基幹道路上にある唯一の橋であるが、同橋は築70年を経過しており昨年の豪雨の際にも倒壊の懸念が深刻化。同橋が崩壊した場合の人的被害や主要交通路が遮断された場合の経済的損害は甚大であることを受け、新たな橋梁の設計・建設に加え、交通状況や橋梁の立地条件に関する短期間で集中的な事前調査の実施。 (3) ゴール県における緊急災害システム ゴール県の自然環境は極めて過酷であることに加え、1979年以降のソ連侵攻時の空爆及び狙撃を避けるためのムジャーヒーディーンによる伐採により、植生が徹底的に破壊されたことから、現在は植生が乏しく土壌が延々と広がる不毛の地となっている。このため、雪害や旱魃に加え、雪解け水による洪水、土砂崩れといった災害が発生している他、昨今の気候変動の影響により、同県の災害に対する脆弱性は急速に深刻化しているところ、ゴール県に国家災害対策局事務所と緊急オペレーション・センターを建設、緊急災害発生時に迅速な対応がとられるようなコミュニケーション・ネットワークの整備、除雪車の配備等を行う。</p> <p>2. カンボジア支援 現在、第1事案(政治犯収容所所長)の最高審の開始や第2事案(元国家元首等4名)の初級審開始など裁判プロセスが本格化する一方で、資金不足に直面しており、我が国は裁判目的完遂のため、カンボジア側法廷職員の人件費等の裁判運営経費に係る追加的な支援を行う。</p>							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算の状況	補正予算			276(カンボジア)			
		繰越し等			1786(アフガニスタン)			
		計			2,062			
	執行額				2,062			
	執行率(%)				100%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)	
	1. アフガニスタン (成果目標) 自然災害によるインフラの破壊及び人的被害の防止  (参考指標) (1) 北部幹線道路地域一帯における雪害被害の死傷者数(昨年冬に北部幹線道路で発生した死傷者数) (2) カブール市アルタール橋の総利用者数 (3) ゴール県における自然災害による被災世帯数(昨年のゴール県における災害被害世帯数)		成果実績 (1)人 (2)人 (3)世帯			(1)約600 (2)約100万 (3)約3500		
			達成度	%	-	-	-	
	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)	
	2. カンボジア 成果目標: 第1事案の最高審の開始及び第2事案の初級審の開始までの司法プロセスを確保する。 成果実績: 上記審議開始に結びつく司法プロセスの進展の有無(100%か0%)		成果実績			1月~3月の司法プロセス		
			達成度	%		100		

活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
1. アフガニスタン (1)北部県における除雪車の提供数 (2)倒壊防止のためのカブール市内の橋梁建設 (3)ゴール県に建設する緊急オペレーション・センター数		活動実績 (当初見込み)		(1)台 (2)車線数・長さ (3)施設			(実施中)	(1)6 (2)片側2車線×40m (3)1
		活動指標						
2. カンボジア 活動指標:平成23年1月～3月の司法プロセス進展(注:実績は、活動実績月数を表示する。)		活動実績 (当初見込み)		カ月			3	—
							3	( )
単位当たりコスト		1. アフガニスタン (1)除雪車1台あたり約1723万円 (2)橋1基の建設あたり、約3億2900万円 (3)緊急オペレーションセンター1施設あたり、約3102万円		算出根拠	(1)除雪車費用総額1億340万円÷6台=1723万円 (2)橋の建設費用3億2900万円÷1基=3億2900万円 (3)緊急オペレーションセンター建設費用3102万円÷1施設=3102万円			
		2. カンボジア 1か月92百万円		算出根拠	279百万円÷3か月=92百万円(1か月)			
平成23・24年度予算内訳 (単位:千円)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	計							

事業所管部局による点検				
	評価		項目	特記事項
	アフガン支援	カンボジア支援		
目的・予算の状況	○	—	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	—	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	カンボジア支援(裁判)は現在実施中。
	○	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>1. アフガニスタン 特に問題なしと認識。</p> <p>2. カンボジア 20世紀の最悪の人道に対する罪の一つとされる クメール・ルージュ(KR)による犯罪をカンボジア自らが国連と協力して裁く本裁判に対し、我が国は本件裁判の成功裡の実施のために拠出するものであり、被疑者の司法プロセスが進む本件裁判への拠出はその目的に合致している。</p> <p>我が国は、本件裁判に果たしてきた役割にかんがみ、裁判目的完遂のため引き続き相応の貢献を行う必要がある。</p> <p>なお今後とも、国連及びカンボジアに対し、各国ドナーからの資金動員にさらに努力するよう要請し、また裁判の全体予算案の圧縮努力や裁判長期化を回避する日程管理の継続を求めていく。</p>			
予算監視・効率化チームの所見				
—				
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)				
—				
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)				